

一般葬儀の進み方について（仏式における仮通夜からお骨上げ法要まで）

◎仮通夜（於自宅）

ごく内輪の人にお集まりいただき、お寺様に読経をいただきます。お寺様には、茶菓子の接待だけでよく、日時・会場・お寺様の人数戒名（法名）については再度確認します。特に、御布施を支払う必要はありません。（すべて終わった後に一括して支払います）

◎通夜当日（於自宅・斎場等安置場所）

湯灌及び納棺の儀

遺族、近親者にはできるだけお集まりいただき、故人の体をきれいにし、お棺に納めます。

準備するもの

- ・お棺の中にお入れになるもの
（御愛用されていたもの、衣類、好きだった食べ物など。ただし、なるべく燃えるもののほうがよいでしょう。葬儀社さんとよく相談してください。）
- ・小銭、お米、お塩（お米とお塩は別々に半紙で包んで）
真宗系では必要ありません。

◎式場への遺体搬送

あらかじめ一緒に乗る人の人数を確認しておき、同行するのが望ましいでしょう。（納棺後、早々に自宅より搬送する人が多いので）同行者には、四華花等を一緒に持っていただきます。

式場に到着したら、祭壇にお参りをし、お世話いただく方々に挨拶をします。その後、係りの方の指示に従って夕食を取ります。また、供花やお供え物の名前を確認し、順番等を必要に応じて決定します。

◎通夜（於式場）

「通夜」は葬儀の前夜に行いますが、故人と最後の一晚を、夜を通して過ごすことから通夜と呼ばれています。

なるべく、開式の30分ぐらい前から式場に座り御弔問の方をお待ちします。

お寺様に、読経をいただき、全員が回し焼香をする。遺族、近親者はできるだけ前列に着席して、お経をいただくようにしましょう。

通夜次第（例）

- ・ 開式の辞
- ・ 読経（まわし焼香）
- ・ 説教（法話）
- ・ 葬儀委員長挨拶（喪主立礼）
- ・ 閉式の辞

焼香順の決め方

葬儀のときに最も問題が多く難しいことは親戚関係の焼香順の決定であります。今日では焼香順と相続問題が絡むことはなくなりましたが、多勢の人の中には必ずこれを問題にする人のあることを心得ておくべきでしょう。従って、そのお家の事情もありましょうから後で問題にならないよ

うに、親戚の長老の方と相談されて順位をお決めになるのがよい方法です。また、最近ではご家族単位で焼香のご案内をされている所が多いようです。

◇焼香順位の例

父死亡の場合の例一

- ①喪主（長男）
- ②母
- ③喪主の妻
- ④喪主の子供
- ⑤施主の子
- ⑥喪主の姉妹（他家の妻）
- ⑦伯父、伯母夫婦
- ⑧叔父、叔母夫婦
- ⑨喪主の兄弟姉妹の子（故人の孫達）
- ⑩喪主の妻の兄弟姉妹
- ⑪施主の従兄弟姉妹（年齢順）
- ⑫故人の友人（年齢順）

父死亡の場合の例二

- ①喪主（故人の妻）
- ②施主（長男）
- ③本家（故人の出た家の当主）
- ④施主の妻
- ⑤施主の子
- ⑥施主の弟、姉妹
- ⑦施主の妻の両親
- ⑧伯父、伯母夫婦
- ⑨叔父、叔母夫婦
- ⑩故人の孫達
- ⑪施主の従兄弟姉妹（年齢順）
- ⑫施主の妻の従兄弟姉妹（年齢順）
- ⑬故人の友人（年齢順）
- ⑭施主の友人代表

◇弔電の順位

弔電は順位を決めておきましょう。また、式中にすべて読み上げることは時間的にも無理があると思いますので、本文も読まれる方と、ご尊名だけ読まれる方の区別をおきましょう。通常は、本文まで読まれる方は5、6通ぐらいです。できれば、読みにくいお名前の方にはふりがなを付けておくと読みやすいかもしれません。

◎葬儀式（告別式）（於式場）

葬儀次第

- ・開式の辞
- ・読経
- ・弔辞
- ・弔電
- ・焼香（呼び出し）
- ・読経
- ・葬儀委員長挨拶（喪主立礼）
- ・閉式の辞

（御宗旨によって弔電が御焼香の後になることもあります。）

◎出棺

故人のお顔の周りに花を飾り、最後のお別れをします。その後、霊柩車までお棺を先頭に、位牌、写真、四華花等を持たれた方の順に参列し霊柩車に乗車します。お見送りのために霊柩車の周りで待っている一般会葬者に一礼してから、車に乗るようにします。できるだけ、貴重品は控え室におかず、携帯する方がよいでしょう。

◎火葬場

火葬場に到着して、御親戚の方がすべて揃うと安置所にて御焼香をします。その後、お棺は炉に入り1時間半ほどでご収骨の準備が整いますので、待ち時間の間に昼食を済ませ、あまり遠くへ行かないように心がけましょう。お骨拾いの際は、火夫さんの指示に従って始めは足の先から拾い、箸渡しといって近くの人の箸へ渡ししながら、骨壺に納めます。
(最初火夫さんの手によって大切な骨を分骨に納めます。喉仏、むな仏等。)

◎骨上げ並びに繰り上げ法要（於式場）

式場に到着したら、まずお清めの塩を体にかけて、また手を洗います。（真宗系ではお清めの塩は使いません。）その後、時間があれば葬儀委員長もしくは会計の者から香典帳やその外の書類、香典等について引き継ぎを受けます。あらかじめ、お寺様と時間を決めておき、全員が着席したところでお寺様を迎えます。

読経が終わり次第、お寺様の所に挨拶に行きます。御布施についてはあらかじめお寺様と金額を打ち合わせし、その時にお渡しいたします。それから、その場にて皆様に食事を取っていただくか、お持ち帰りの料理を用意して、葬儀役員の労をねぎらいます。落ち着かれてから御自宅に帰ります。葬儀社によって四十九日までの祭壇を飾らせていただくことが多いです。